Press Release

TOKYO DOME CITY

株式会社 東京ドーム

三井不動産グループ
MITSUI FUDOSAN GROUP

2023 年 6 月 6 日

報道関係各位

株式会社東京ドーム

お化け屋敷「怨霊座敷」特別演出
『呪いの硝子窓』を開催！

今年は神戸芸術工科大学 志茂浩和教授による特殊な映像技法を用いた演出が初登場

2023 年 7 月 15 日（土）～10 月 31 日（火）

東京ドームシティ アトラクションズでは、2023 年 7 月 15 日（土）～10 月 31 日（火）の期間、常設のお化け屋敷「怨霊座敷」の恐怖の演出・ミッションをさらにパワーアップし、特別演出として『呪いの硝子窓』を開催します。

今回は、新たに神戸芸術工科大学 志茂教授による「SSF=Shimo Style Fantasmagoria」の特殊映像技法を用いて非現実的な「得体の知れないもの」を表現します。2018 年 4 月以降、＜靴を脱いで入る＞演出で開催していましたが、今回は＜靴を履く＞演出で開催します。恐怖演出がパワーアップする今年の特別演出では、部屋の中に閉じ込められた夜雨子の怨念が、引っ越してきた夫婦に襲いかかります。それともう一つ、この家の床には、硝子の破片が落ちているかもしれません・・・ 踏みつけるとその怨念が足の裏から体に取り憑いてしまいます。だから、靴だけはしっかり履いて進んでください。

さらに 17 時以降の【絶叫編】は、16 時までの『呪いの硝子窓』よりも恐怖の演出ポイントがさらに倍増し、恐怖度が何倍にもアップします。夏の暑さを吹き飛ばす恐怖のエンターテインメントを、ぜひお楽しみください。

開催概要

◆タ イ ト ル：お化け屋敷「怨霊座敷」特別演出『呪いの硝子窓』

◆開 催 期 間：2023 年 7 月 15 日（土）～10 月 31 日（火）
※7/3（月）～14（金）の期間、お化け屋敷「怨霊座敷」の営業は休止
※【絶叫編】は 9/3（日）まで

◆開 催 時 間：10：00～16：00 【絶叫編】 17：00～22：00
※9/1（金）～10/31（火）までは 21：00 までの営業を予定
※8/11（金）～15（火）は 9:30～
※混雑状況により、受付時間が変更の場合あり

◆開 催 場 所：東京ドームシティ アトラクションズ ラクーアゾーン 1F

◆料　　金：1,050 円 【絶叫編】 1,200 円
※ワンデーパスポート・ライド 5・アトラクション 1 回券での入場可
※【絶叫編】はワンデーパスポート・ナイト割引パスポート・ライド 5・アトラクション 1 回券利用の際は、別途 700 円が必要

◆入 場 規 定：6 歳以上

◆企画・制作：㈱オフィスバーン

◆プロデュース：五味弘文氏

◆映 像 演 出：神戸芸術工科大学 志茂浩和教授

◆公 式 サイト：https://at-raku.com/attractions/laqua/onryouzashiki/
※詳細は、公式サイトをご確認ください

お客様からのお問い合わせ先：東京ドームシティ アトラクションズ TEL.03-3817-6001

【ストーリー】

ある家に、瑠璃と秋人とういう夫婦が引っ越してきました。二人は一つだけ気になることがありました。家の奥に、鍵の掛かった“曇り窓の付いた部屋”があったからです。ある晩、瑠璃はふと目を覚ましました。家の奥の方から、人の声が聞こえてきます。そっと覗いてみると、あのドアの前で秋人が誰かと話しています。

「もうすぐ出してあげるから。」気になった瑠璃は、秋人が出かけている間に、ドアを見に行きました。曇り窓に顔を近づけた瞬間、その奥に女の顔が浮かび上がりました。

「あの人を渡さない。」女が言います。恐怖に駆られた瑠璃は、思わず窓を割ってしまいました。しかし、部屋の中は空っぽで誰もいません。瑠璃は、窓を修理して、秋人には何も話しませんでした。ところが、その数日後、秋人がどこかに残っていたガラスの破片で足を切ってしまいます。そのケガをきっかけに、秋人は高熱を出すようになりました。熱にうなされた秋人の耳元で、女の声が聞こえます。

「おまえを傷つけたのは瑠璃だ。瑠璃を部屋に閉じ込めろ。」

見ると箪笥の引き出しに一本の鍵が入っています。それは、あのドアの鍵でした。秋人は、瑠璃を捕まえると、その部屋に閉じ込めてしまいました。やがて瑠璃は部屋の中で亡くなってしまいます。

実は、その部屋は、夜雨子という女が閉じ込められて亡くなった部屋だったのです。夜雨子は、秋人をたぶらかし、自分と瑠璃を入れ替えてしまったのです。今でも、瑠璃はその部屋から、助けを求めてきています。どうか、窓のついたドアを開けて瑠璃を助け出し、もう一度、夜雨子を部屋に閉じ込めてください。

【お化け屋敷プロデューサー・五味弘文氏】

五味弘文氏

1957 年　長野県生まれ。

1992 年から、東京ドームシティ アトラクションズのお化け屋敷を手がける。

お化け屋敷にストーリーを持ち込み、お客様に役割を担わせることでそのストーリーに参加させるスタイルを確立する。

東京ドームシティ アトラクションズでプロデュースしたお化け屋敷の代表作に、赤ん坊を抱いて歩く『赤ん坊地獄』、手錠に繋がれて歩く『恐怖の手錠地獄』、十年間隠れたままの男の子を見つける『恐怖のかくれんぼ屋敷』、怨霊の薬指に指輪をはめる『呪い指輪の家』などがある。

2018 年夏には札幌、大阪、鹿児島など全国7ヶ所でお化け屋敷を展開するなど、お化け屋敷プロデューサーとして全国各地で活躍中。

『人はなぜ恐怖するのか？』（メディアファクトリー）、『お化け屋敷になぜ人は並ぶのか』（角川 one テーマ21）、小説『憑き歯～密七号の家』（幻冬舎文庫）などの著書もある。

【志茂浩和教授プロフィール】

志茂浩和教授

1960 年　大阪生まれ、東京在住。東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻中退。
神戸芸術工科大学教授。1994 年 Sony Music Entertainmennt DEP での受賞を契機に
3DCG を修得。同社よりダリの絵画世界をゲーム化した「incarnatia」(1997)を発表する。
以降、プライベートアニメーション製作に取り組み Siggraph などで発表する。
六本木アートナイト 2018 に出品した「挟まる人」は、第 22 回文化庁メディア芸術祭
アート部門審査委員推薦作品、第 21 回 CS デザイン賞準グランプリに選出されている。
2019 年に発表した独自技法 SSF(Shimo Style Fantasmagoria)を用いた作品は、六本木
アートナイト 2019 における「囚われる人」などで大きな話題を呼んだ。
2022 年の個展にて SSF を用いて発表した「弁天様」は SNS で 1000 万回以上再生され、
2023 年にみんなの森ぎふメディアコスモスで開催した「弁天舎ブックフェア」のシンボル
として展示したところ、大きな反響を呼んだ。また、同展で発表した画像生成 AI を用いた
架空の本「フェイクブック」も好評を呼んだ。

【SSF=Shimo Style Fantasmagoria（志茂式ファンタスマゴリー）】

Shimo Style Fantasmagoria

映像であるにも関わらず、すりガラス越しに被写体が存在するように錯覚させる
技法。すりガラス状の板越しに撮影した映像をポリカーボネイト中空越しに再生
することで、映像での現象が中空板上で屈折する。これにより、見えている像が
実在する板の影響を受けていると認知するため、結果的に映像感が消失し、
被写体が実在するかのように錯覚する。これまでの展示では、全ての観客が
錯覚することを確認している。
また、現実か映像かの判断がつきにくい為に、映像の内容に関わらず「怖い」
と評価されることも多い。「弁天様」が話題を呼んだのは、映像内容・大きさと
合わせて、現実か非現実かの判断が難しい「得体の知れないもの」と認知された為だと考えている。
特別な装置は用いず、一般的に販売されている材料、機材のみで構成されるため、応用範囲が広いという
特徴がある。